

「復帰」50年企画・沖縄の未来を共に考えよう！~~~~~

「沖縄はどこに向かうか？自己決定権の今」

の講演会です。9月14日（水）

午後5時（開場4時半）～、ているる（那覇市西町）、以下の講師で

新垣毅氏（琉球新報報道本部長）

仲里効氏（「越境広場」編集者）

「琉球処分」以後、沖縄の自己決定権は行使できていない。

現在、米中対立が強まる中、米は中国が危険だと煽り、元安倍首相は「台湾有事は日本有事」と喧伝、今に至る。米軍が自衛隊と一緒に琉球弧の有人島を移動しながらミサイルを撃つ遠征前方基地作戦（EABO）計画がある。しかし「有事」になると米軍はグアムかハワイに撤退する。島々の人々の命を盾にしておきながら、いざとなれば米軍は逃げる。

米は日本に防衛費増額をせよと求めてきた。日本政府は国民生活を貧しくしても米の要求に答えているのが日本政治である。「もう二度と沖縄戦を招来させてはいけない！」という沖縄の悲願を無慈悲にも捨てざるかのように、琉球弧にミサイルを配備、辺野古では埋立て反対の声を封殺して埋立強行を続けている。中高生でも分かるように、ミサイル攻撃から生き延びるのは至難の業でそんな愚策でも日本は米従属を受け入れ、近隣諸国外交は軽視している。日中共同声明50年だ。私たちは誰に支配されているのか。日米（軍）である。複雑骨折な政治状況を読み解き、沖縄の自己決定権の行使の在り方を考えたい。「沖縄はどこに向かうか？」と。司会：宮城恵美子。スタッフ：与那覇恵子、木村朗。090-1946-6702（宮城）。

主催：東アジア共同体・沖縄（琉球）研究会、

共催：ISF（独立言論フォーラム）。入場無料（資料代500円）。